

ある日

三四

附屬幼稚園 町田 行子

「僕にも作つてね。」

「僕にも。」

「僕にもね。」

ミ、木の枝に糸をつけて釣竿を作つてゐる手もきを、一生懸命にみつめていふ。出来上るミ嬉しさに手に持つてお池へかけて行く。大きな鯉を釣りあげようミ、大喜びで真先に糸をたれたこぎも。それはまづ失敗だつた。糸は水面を流れるのみである。

「おもりをつけなくちや駄目だよ。」

ミ糸の先に小さな石が結びつけられ、今度は竿から真直に糸がたれて、おもりは水に沈み、やつミ落ついた。

さてお道具が揃へられるミ次はえさである。みゝずが鯉の大好物であるこぎは、すでに大きな組のこぎもたちの釣りを見て知つてゐる。お山の石塀の下は、しめつぼくて、みゝずがあるやうな氣がするので、お池にかゝつた橋をわたり、山道をかけ上つて、えさを取りに行く。草花を植ゑ

かへようミする時なき、ひよつくり土の中から掘り出されて、思はずアツミ奇聲をあげさせるみゝずも、鯉のえさにされるこぎを知つてか知らずにか、このやうな場合には、なか／＼あらはれてはくれない。小石をきけて土を掘つてみる。又、場所をかへて掘る。が、出て來ない。

「みゝずは氣味がわるいもの」ミいふ、自分の頭のこぎかにひそんでゐる氣持がはたらいて、みゝずをみつけれないのではなからうか、大きなこぎもたちはよくつかまへて來るのに、ミ、考へさせられる。

みゝずをあきらめたこぎもたちは、ぎんなんをえさにするこぎを思ひついた。黄色に熟れて落ちた、まるいいてふのみ。拾つて遊びたくてたまらないのを、いつも、かぶれるこぎけないので、手ではいぢらないこぎにしてあるいてふのみが糸の先につけられたので、すつかり満足して山をくだる。

池のふちにしやがんで、糸を垂れるミ、まるいみは氣持

よくスーツを沈む。

み、ずでなければ、なか／＼よりつかない鯉が、たまにさーツミ泳ぎ過ぎるを、得意さうにヒュッミ竿を持ちあげて、

「僕のを、ひつぱつたよ。」

「僕のぎんなんもつつついたの。」

ミ、夢中で喜ぶ。その騒ぎのなかに、ひきり、土橋の縁に釣竿をつきさし、だまつてしやがんで、悠々ミ守つてゐる、小さな太公望がみられた。

× × × × ×

お山のすみの、いてふの木のまはりは、一段高くなつてゐて、三方が石堀にかこまれてゐる。其所は何さいふこになしに、いろいろのむしの家があるやうに思はれて居る。

むしさいへば、すぐに其所へ探しに行くのである。

けふも、めい／＼手に手に袋を持つて、こぼろぎりに出かけた。みんなは上手にめざこくみつめて、ふくろに入れてゐる。

文夫ちゃんは中で一番小さく、身體もふみつてゐるが小さい。しかし、するこは何でもお友達と同じにするし、なか／＼勝氣でもある。ミころが、文夫ちゃんの袋にはまだ一匹も入れられてゐなかつた。ちやうど、その時、文夫

ちゃんの足許に、一匹、大きなこぼろぎがはね上つた。

「アッ。ゐた！ ゐた！」

もちまへの高い聲で叫んで、パッミ押へた。が、身輕なこぼろぎは、ふみつたまあるい文夫ちゃんやんの指の間から、ポーンミ飛んでしまふ。落ちたところをみつめて、しのびあしに近寄つて、又パッミおさへる。又、ポーンミ逃げられる。それを夢中に腰をかゞめて、追ひかける文夫ちゃんの口から、やがて、こぼろぎにいひきかせる、こんな言葉がきかれた。

「ヤーイ。こぶな」。

幼 児 こ よ み

先月號に、色刷り廣告にしてお知らせ申し上げて置きました幼児こよみは、地方の各幼稚園からもぼつ／＼御賛同御利用を頂いて居りますが、東京市及近郷の各幼稚園からは多大の御賛同を得て居ります。殊に東京市保育會、雙葉幼稚園、大和郷幼稚園、みどり會、女高師附屬幼稚園よりは大部のお申し込みをいたゞいて居ります。計畫者側の立場と致しましては、全國の各病院の傷痍軍人のお一人でも多くに届きますやうにと、尙愈じて居ります次第でございます。委細は本誌廣告を御覽下さいませ。

(編輯係り)